



台湾の  
大地を

拓<sup>ひら</sup>  
いた  
人  
たち

土木屋には

台湾も日本もない!

自分の技術が  
人々の役にたてるかどうか、  
それが大切なんだ!



①台湾総督府 (p6)

重慶南路一段 122 号  
平日の月～金 9:00～12:00 (最終受付は 11:30)

②阿里山<sup>ありさん</sup>森林鐵路 (正式名称: 阿里山<sup>ありさん</sup>林業鐵路) (p9)

嘉義市西区中山路 528 号  
鉄道で「嘉義駅」下車、阿里山森林鐵路に乗り換える

③宜蘭堤防と「西郷庁憲徳政碑」(p11)

台北から宜蘭、羅東方面行きの国光客運バスに乗り宜蘭新店で下車  
呉沙路を市内方向に徒歩約 3 分あるいは宜蘭駅からタクシー

④宜蘭設治記念館 (p14)

宜蘭市旧城南路力行 3 巷 3 号  
休館は毎週月曜、毎月最終日、三大国民祝日

⑤基隆<sup>キールン</sup>港 (p15)

基隆市仁愛区忠一路 基隆駅から歩道橋を渡れば徒歩すぐ

⑥台南水道 (「台南山上花園水道博物館」) と銅像 (p22)

台南市山上里 16 号 浄水池エリアは無料

⑦烏山頭<sup>うさんとう</sup>ダム風景区 (p31)

台南市官田區嘉南里 68-2  
鉄道で「新宮駅」または「林鳳宮駅」下車、台南市バス黄 1 に乗り換え「烏山頭ダムバス停」下車  
あるいは鉄道で「隆田駅」下車、台南市バスオレンジ 10 に乗り換え「烏山頭ダムバス停」下車

⑧八田技師記念公園 (復元されたダム建設関係者住宅区) (p32)

台南市官田區嘉南里 66 号 烏山頭ダムの北側 徒歩 10 分

⑨白冷圳<sup>はくれいしゅう</sup> (サイフォンの原理を利用した農業用水路) (p34)

台中市新社區協成里協中街 2-1 号  
台湾高铁台中囃から車で約 50 分あるいは、台中囃からバス豊原客運 270、271、276 番に乗り「新社區」下車

⑩二峰<sup>にほうしゅう</sup>圳 (地下ダム) (p37)

二峰は鳥居信平が勤めていた製糖会社社長の雅号  
屏東県来義郷来義橋の上流、森林公園内

⑪日月潭<sup>にちげったん</sup> (p41)

台湾南投県魚池郷に位置する湖  
台中国際空港→高铁台中駅 (1 階 5 番出口 3 番バス乗り場、約 40 分)→日月潭 (約 90 分)  
日月潭のバスターミナル (日月潭站) は日月潭の観光案内所「水社遊客中心 (晶喜城)」の前

⑫大観<sup>だいかん</sup>発電所 (p43)

日月潭の水を利用して発電する日月潭第一発電所は、戦後の 1948 年に『大観水力発電所』と改名された  
集集線鉄道の終点・埤駅からタクシーで約 20 分

⑬台湾鉄道・集集<sup>しゅうしゅう</sup>線 (p45)

彰化県の二水駅から南投県の車埕駅までを結ぶ全長約 30km のローカル線  
停車駅は、二水駅、源泉駅、濁水駅、龍泉駅、集集駅、水里駅、車埕駅  
日月潭へは、水里駅または車埕駅から南投客運バス

⑭明石元<sup>あかしもとじろう</sup>二郎総督墓所 (p45)

新北市三芝區店子村溪底路 福音山基督教墓園内  
淡水からバス (1 日 6 本) で約 30 分。北新莊經由三芝行き、員山頂下車 (32NTD) 徒歩約 20 分



八田與一技師による鳥山頭ダム起工式。嘉南大圳事業は、当時、東洋一の灌漑土木工事として、大正9年に着工し、昭和5年に10年間を要して竣工した。その概要は、15万haの荒れ地で苦しんでいた60万人の農民に対して、鳥山頭と濁水溪のダムに貯水した水を16,000km（地球半周分の長さ）の給・排水路から水を引き、15万haの土地すべてに同時給水することは物理的に不可能だったので、3年輪作給水法という灌漑方式で水を分配した。



鳥山頭ダム水庫と土堰堤。台湾最大の人造湖が灌漑用ダムと思えないのは、柔らかな風景と化した土堰堤のためだろう。



### 白冷圳（はくれいしゅう）

磯田謙雄は、八田與一技師と同じ金沢（現・尾山町）出身で7歳年下、旧制金沢1中、旧制四高、東京帝国大学工科大学土木工学科から台湾総督府、まさに八田與一と同じ道を歩み、現在も台湾中部・台中市新社區の台地に水を注ぐ全長 16.6 kmの農業用水路「白冷圳」を設計していた。



乾期で干上がった川と、地下ダムへの入り口(左)

地下ダムの水で潤う来義村

### 自然環境に配慮した地下ダム 二峰圳（にほうしゅう）

鳥居信平は、明治16年、静岡県上山梨村（現・袋井市）に生まれ、八田與一と同じ金沢の旧制4高に進む。鳥居が卒業した年に3歳年下の八田が入学している。卒業後は東京帝大農科大学に入学。台湾南部の屏東県で地下ダム「二峰圳」を建設、現在も地域の生活を支えている。今年、着工100年を迎えた。

台湾の大地を  
拓いた人たち

緒方英樹

# 目次

はじめに　～後藤新平の敷いたレール～	4
一、鉄路を拓く	6
台湾縦貫鉄道四〇五キロへの道のり	
卓越した鉄道技術者たち	
二、水を治める	11
西郷菊次郎 <small>さいごうきくじろう</small> による宜蘭河 <small>ぎらん</small> の治水工事	
三、港を拓く	15
川上浩二郎 <small>かわかみこうじろう</small> 技師による基隆港 <small>キールン</small> の建設	
四、上下水道を整える	18
台湾の公衆衛生向上に尽くした英国人技師バルトン	
師・バルトンの遺志を継いだ浜野弥四郎の水道建設	

五、水を引いて大地を拓く……………24

八田與一による嘉南大圳事業

土木技術者の本懐

「白冷圳」を設計した八田技師の後輩・磯田謙雄

六、地下を拓く……………36

上野英三郎の教え子・鳥居信平

目に見えない土木の価値がある

七、水力発電に挑む……………40

台湾の工業化を促した日月潭発電事業

創作オペラ二幕……………49

「台湾に水を引いた男 八田與一ものがたり」

あとがき……………117

## はじめに　　後藤新平の敷いたレール

「自分は、後藤新平の敷いてくれたレールの上を歩いているのかもしれない」。

ある時、八田與一はったよいち技師は、長男・八田晃夫てるお氏にそう咬つよいたらしい。その話を、晃夫氏に聞いたのは、八田技師の墓前祭が催されていた台南市の烏山頭うざんとうダムの畔、ガジュマルの木陰での立ち話だった。晃夫氏は、二〇〇六年の墓前祭に参列して二週間ほど後、五月二〇日に亡くなられた。晃夫氏から頂いた著書『後藤新平略史』が手元に残る。

今年、八田與一技師没後八〇年。例年ならば技師の命日にあたる五月八日には日本からも多くの人が烏山頭水庫ほとりの八田技師銅像前で開催される献花式に訪れるのだが、コロナ渦の影響で台湾と日本それぞれでの供養となった。八田技師の生地である金沢市では、金沢ふるさと偉人館で慰霊祭が斎行された。式典には八田與一技師の令孫で、八田晃夫氏令息の八田修一氏も参列された。

同館二階の常設展示場には、金沢ゆかりの「近代日本を支えた偉人たち」として、さまざまに分野で功績を残した偉人たちの資料を展示して顕彰している。その中に、八田與一もいる。土木技術者が偉人として認められているのは稀有な例だろう。

だが、日本統治時代の台湾において、その近代化へ向けた基盤づくりに貢献して際立った成果を上げたのは八田與一に限らない。本書では、八田與一を足がかりにしながら、台湾の大地を拓いたパイオニアたちについて紹介していきたい。

さて、八田與一が呟いた後藤新平の敷いたレールとはどのようなものだったのか。

当時の台湾は、それまで領有していた清国から、長らく文化の及ばない「毛外の地」と呼ばれるほどに未開と言われていた。日本が台湾統治後、初期の紆余曲折を経て台湾総督府が行なったことは、台湾全島の地理、地形、地勢の調査であり、それらに基づいた都市計画によって道路、鉄道、港湾、電信、電力、上下水道の整備が進められた。そうした台湾近代化の基礎と道筋づくりを本格的に推進したのが、第四代総督・児玉源太郎と民政長官・後藤新平であった。特に、後藤新平による台湾統治の考え方と実践は、台湾の近代的な基盤整備における土台を築いただけでなく、後に続いた若き技術者たちの道標となった。

後藤は、六年がかりで台湾全島の土地調査を行った。その土地調査で後藤は、臨時台湾土地調査局を設置して自ら局長を兼務。若き事務官中村是公よしかとを局次長に抜擢、農地面積の増大、地租の増収、租税制度の一新をはかった。農産物輸送のための築港、鉄道、道路を基幹としたインフラ整備、産業発展のための輸送整備では、日本から第一線の人材を抜擢した。基隆港築港では自ら築港局長となり、川上浩二郎を技師長として抜擢、台湾縦貫鉄道建設では台湾鉄道部を新設して自ら部長となり、日本国鉄から技師長として長谷川謹介技師を招いた。台湾を南北に縦貫する路線（基隆・高雄間）は、明治四一年までに全線完成させた。また、製糖産業では、新渡戸稲造を招いてサトウキビの品種改良と耕作方法の改善をおこなわせ、後藤は製糖工場の近代化をはかって大規模化を進め、製糖を台湾の中心産業に発展させた。

広大な不毛の大地に水を引いて、地元民衆たちから神とまで崇められた八田與一技師の活躍は、台湾統治も半ばに近づいた大正時代のことである。

# 一、 鐵路を拓く



写真-1 台湾総統府(旧台湾総督府)

## 台湾縦貫鉄道四〇五キロへの道のり

明治二八年六月、台湾の台北に総督府が開庁する。赤れんがと花こう岩でつくられた官庁建築である(写真-1)。現在の台湾総統府前の片道三車線、幅員四〇mの道路が今に残る(写真-2)。当初、台湾総督府は、鉄道建設を最重要テーマと位置づけ、莫大な費用と最高の人材を投入した。しかし、その鉄道建設は、風土病による多大な犠牲や旧線の補修、あらゆる困難な状況を一つずつ克服しながら、台湾鉄道の新たな基点を築くというきわめて険しい道のりであった。

初代総督の樺山資則は、台湾統治の「百年の大計」として「南北縦貫鉄道建設」「道路建設」「基隆港建設」を提案し可決される。すぐに台湾鉄道総司令部が発足、台北から基隆までの鉄道実地調査のため通信省鉄道技師・小山保政(やすまさ)が派遣される。そこには、清朝時代に台湾省の初代巡撫(地方官)だっ



写真-2 台湾総督府前の、片道3車線、幅員40mの道路

た劉銘伝りゅうめいでんが指揮して敷設した路線が残っていたが、レールが抜け落ちている箇所もあり、一輛しかない機関車は、人が後押ししないと動かないとまで言われた実用性のない代物だった。実際、当時の主な交通手段は歩くか駕籠、船しかない状況で、それは日本の明治時代以前と同様であっただろう。だが、軍事物資輸送を優先した鉄道建設は急がれていた。

臨時台湾鉄道隊技師としてその修復を命じられた小山は、枕木から車両まで鉄道建設資材を日本から調達しながら台北駅建設用地買収に奔走した。しかし、未開の亜熱帯である。マラリアやコレラといった風土病、気候不順が工事従事者たちを疲弊させた。臨時鉄道隊は、多くの犠牲者を出しながらも基隆から新竹しんちくまで改修していった。

設された。初代鉄道部長には民政長官の後藤新平が兼務する。鉄道建設への並々ならぬ意気込みがうかがえる。その目指す先には、基隆〜高雄間の台湾縦貫鉄道四〇五kmの建設があった。後藤は、その大プロジェクトを確立して、鉄道国営政策を策定、台湾総督府鉄道部が創

クトを実際に指揮する初代技師長に四五歳の長谷川謹介きんすけを抜擢する。日本鉄道界のトップエリートだった。鉄道部は、総務、工務、汽車、運輸、經理の五課からなり、長谷川が工務、汽車、運輸を兼務した。抱えた技師の中には小山保政の名もあった。

長谷川は、測量隊を各地に派遣して調査、自らも実地に赴いて台湾の将来を見据えたルート決定に携わり、基隆〜新竹〜台中〜嘉義かぎ〜高雄という四区間を同時に進めていった。基隆〜新竹間以外は新路線とした。険しい山岳に穿うがつ複数のトンネル、猛烈な台風による河川の増水、それらに架ける橋梁工事は困難をさわめた。長谷川は、台湾縦貫鉄道建設にあたり、日本から呼び寄せた二四名の卓越した技術者集団を抱えていた。その中で注目すべきが、長谷川を筆頭に小山保紀、佐藤謙之輔けんすけといった工技生養成所出身のエリートたちである。

### 卓越した鉄道技術者たち

縦貫鉄道建設で長谷川が選抜した技術者集団には、井上勝まさるが創設した工技生養成所や東京帝国大学、京都帝国大学出身者のほか、民間の工業学校出身の優秀な技術者もいた。たとえば、近代化を達成するため職工不足を解消するため、技師と職工の中間の技術者養成のため明治二〇年に設立された工手学校（現在の工学院大学）出身者もいた。「工手」とは同校創立者の渡辺洪基こうきによると「将を助け、卒を導く下士官」のことを示した。出資者には、岩崎弥太郎、大倉喜八郎、高島嘉右衛門、古河市兵衛、渋沢栄一らの名前がある。同校出身の飯田豊二いいたとよじは、縦貫鉄道の調査や南部線建設、鉄道橋の設計・建設に手腕を發揮し



写真-3 「阿里山開発の父」と呼ばれた河合博士の碑

て、技手から技師に昇格する。同校卒の進藤熊之助も、台南く嘉義間の測量や検査・監督を担当している。そのほか攻玉社工学校になる前の攻玉社量地校や岩手尋常中学校出身の技術者も選ばれて縦貫鉄道建設に従事した。

また、阿里山の豊かな森林から木材を搬出することに注目した長谷川は、その調査を飯田豊一に任せ、運搬ルートの見通しが見えてきた。しかし、その後、飯田は日本一長いと言われた下淡水溪鉄橋工事完成を目前にマラリアに感染して台南病院で死去する。有志により建立された記念碑には「庶幾不朽」すなわち、台湾鉄道に尽くした働きは不朽であると刻まれている。

その後を継ぐ形で、阿里山ありさん鉄道建設の資材供給のため阿里山森林の調査報告を長谷川に提出した河合かわい紳したろう太郎の存在も見逃せない。東京帝国大学農科教授の河合は、後藤新平の招きで台湾に渡り、阿里山森林鉄道の敷設に林学博士の立場から貢献した。阿里山には「琴山河合博士 旌功碑」が建っている（写真-3）。琴山とは河合の号である。

縦貫鉄道建設でその技能を認められた進藤熊之助もまた、阿里山森林鉄道の測量と建設に携わっている。阿里山作業所の技師に昇格した進藤だが、阿里山森林鉄道の修復工事中に材木運搬車が脱線して重傷を負い、嘉義病院にて息を引き取る。嘉義公園に建てられた殉職記念碑は、当時の阿里山作業所嘉義出張所長が安東総督に請願、三五〇人の有志が寄付を募ったもので、碑石には当時貴重な御影石が使われている。阿里山森林鐵路は、明治四五年に嘉義から阿里山まで八五kmが全線開通した。その後、平成一年の大地震や脱線事故の発生、同二七年の台風被害により、全区間復旧が進められた。平成三〇年年七月から運行主体が台鉄から林務局に戻り、阿里山林業鐵路と文化資産管理処が担当している。

そして明治四一年、一〇年余りの歳月をかけて台湾縦貫鉄道四〇五キロ全線は開通した。台湾鉄道史にとって新しいページが開かれたのである。全線開通式委員長には、鉄道部長となっていた長谷川が任命された。これによって台湾全土の交通だけでなく、経済や文化をはじめ地域間ネットワークも円滑化していく基盤が整ったのである。その最大の功労者である長谷川謹介が「台湾鉄道の父」と言われる由縁はここにある。長谷川の基本理念は「一メートルでも先へ、一日でも早く、できるだけ収入を」というものであったという。その後、長谷川は鉄道院副総裁を歴任して生涯を鉄道に捧げた。

創作オペラ二幕

台湾に水を引いた男

八田與一はったよいちものがたり

緒方英樹



「八田與一家族写真」

八田外代樹<sup>とよき</sup>さんは16歳で金沢から台湾に嫁いで（当時八田與一さんは31歳）8人の子供を授かり、ダムの完成を目指す八田さんを支えました。

工事完成后、八田さんはフィリピン派遣のため渡航、アメリカ潜水艦の魚雷を受け死亡。享年56歳でした。

1945年、日本は終戦を迎え9月1日未明、外代樹さんは、黒の喪服に白足袋という正装で烏山頭ダムの放水口に身を投げました。享年45歳でした。

登場人物

八田與一 30代〜50代

八田外代樹（與一の妻） 20代〜40代

ミサオ（外代樹の女中） 19歳

徐英哲（農民の子供） 8歳、15歳

徐俊英（英哲の父）

山形要介（台湾総督府土木課長）

陳永忠（台湾の農民）

黄志明（台湾の農民）

台湾の農民たち（影たち） 8人

中島（日本人技師）

柴田（日本人技師）

赤堀（日本人技師）

大城（日本人技師）

柴田勉（つとむ） 柴田技師の息子 9歳、16歳

赤堀ミヨ 赤堀技師の娘 8歳、15歳

柴田技師の妻

大城技師の妻

台湾人の従事者たち 男女6人

日本人の子供たち 男女5人

台湾人の子供たち 男女5人

小飯店夫婦 楊さん、春美さん

飯店の客 1、2、3、4

物売り少年、少女数人

写真屋 50代

芸人たち

桧山俊平 台湾総督府職員

嘉南農田水利組合職員

林さん、張さん、呉さん、蔡さん

八田技師夫妻を慕い友好の会

語り

二胡奏者

# 第一幕

## プロローグ

幕開きと同時に、全員合唱

〈フォルモサの歌〉

遠い昔より 光と緑に彩られ

清らかな甘き香り 湖畔の朝もや

ガジュマルの木肌に 耳をあてると

ほら 聴こえてくる 聴こえてくるよ

鳥たちの声 風の声

はるかな山を越えて ひび割れた大地 やがて潤うるおす

水の音 命の水

私たちは忘れない 忘れない

私たちは生きている 生きている

麗うるはしき島 フォルモサの民よ

フォルモサの水 嗚呼

暗転 全員すみやかに舞台袖へ

SE ちよろちよろと、水の音

舞台スクリーンに、八田與一家族の写真が浮かび上がり

スクリーン脇に一人の青年が立つ

(以下、「」はセリフ)

語り「私の祖父の名は、八田與一です。

今から九〇年ほど前、台湾の嘉南平原という広大な荒れ地を豊かな穀倉地帯に蘇らせたと言われる土木技術者です。そんな偉大な祖父のことを知ったのは、私が生まれてずいぶん経ってからのことでした。なぜなら、私は祖父に会ったことがありません。祖父・八田與一が、日本統治時代の台湾で、なぜ不毛の大地と言われていた嘉南平原の開拓に挑んだのか、台湾現地の人たちと家族、日本から連れて行った技術者たちと家族の人たちにはどのような苦労があったのか。その苦労はどのように報われたのか。私は、知りたいのです」

水の音が途切れ、暗転とともに静寂

## 第一場

テーマ 〈対立〉

SCENE 台湾の南部、嘉南平原

いきなり、ぎらつく太陽

舞台スクリーンに、南国の灼熱にじりじりと照らされた不毛の大地が広がっている  
農民たちの合唱が被さる

農民たちの合唱

遠い昔より

光と緑 あふれだす 麗しき島

嗚呼 フォルモサ

されど 遠い昔より

来る日も 来る日も

洪水・干ばつ・塩害の三重苦

ひび割れた嘉南の大地

されど 遠い昔より

主（ぬし）を知らぬ未開の地

何度も 何度も

土地を奪われ 言葉を奪われ

父よ 母よ 先祖の人たちよ

心だけは 魂だけは 奪われぬ

舞台上手から

水桶を積んだ荷車を引く徐俊英と、荷車を後ろから押す息子の英哲がゆつくりと出てきて歌う

英哲 エイサア、エイサア

日照りて畑は、からっからのひび割れだ

俺たち毎朝、山のため池から牛車ウシクルマで水汲み

エイサア、エイサア

井戸を掘っても 塩っぱい水で 飲めやしない

畑に水やり からっからのひび割れで

俺たちちや泣いても お天道様おてんとうさまは笑ってる

朝あさは朝星ほし、夜よるは夜星ほし、昼ひるの弁当べんとうは梅干しだ

エイサア、エイサア・

俊英 命の水だ 一滴たりと こぼすんじゃねえ

英哲 ソーレ、ソーレ

俊英 でこぼこ道だ へこたれるなよ 命の水だ

英哲 父ちゃん もうへとへとだ 腹へったあ

俊英 ばかたれ、しつかり押すんだ もたもたするな

腰を入れる 歯を食いしばれ ソーレ、ソーレ

英哲 朝から水汲み 行ったり来たり 腹へった

俊英 つべこべ言うなら メシ抜きだ

英哲 雨雨ふれふれ 腹へったあ

反対下手袖から、

日本人の子ども達が走り出てきて

子ども達の歌

泣き虫 弱虫 水汲み坊主

何回汲んでも からっからのからっから

お天道様が笑ってる 笑ってる

英哲 お前達内地人に何がわかる

俺たち 水を汲まなきゃ生きていけない

田んぼも畑も枯れてしまう 大雨が降ったら 洪水だ

井戸を掘っても 塩っぱい水だ

だから汲むんだ 命の水を

俊英 俺たち本省人 内地人に関わるな

あとかぎ

総延長一、二七三mの烏山頭ダム堰堤は、大阪狭山池より長く、今では早朝の散歩道としても地域住民に親しまれている。さらに、公園化された烏山頭エリアには烏山頭ダムと堰堤、余水吐き、八田技師の銅像と夫妻の墓、当時の運搬用蒸気機関車、送水ポンプ、三角埤公園、広場、天壇、つり橋などがある。毎年の五月八日、嘉南農田水利会や地元農民によって八田技師を慰霊する墓前祭は、この堰堤脇にある銅像前で催されている。

日本と同様に季節ごとの変動が激しく不安定で、梅雨期と台風期に降雨が集中している台湾南部において、約四〇万haもの水田への灌漑用水はいかに調整されているのだろうか。コロナ渦の数年前、渡台した翌日の早朝七時、烏山頭水力発電所からの放水が始まった。放水された水は、導水路一、六kmを流れて嘉南農田水利会分岐工作站到送られ、そこで分岐站长がバルブを開けて幅四・五mの南幹線へ一〇km、北幹線へ四七・七km送水されていた。そして、三年輪作のための給水は、一月から稲の苗が育つ五月まで行われ、例えば南幹線では三つの水路橋、六本の給水支線、四六本の分線、三五本の排水路に分かれていく。こうした水路が嘉南平野一五万haに細かく網の目のように張り巡らされ、水利会の各分岐処で農地への水利用が管理・調整されていた。八田與一技師による三年輪作給水は、すべての土地を五〇町歩ずつ区画し、一五〇町歩をまとめて一区域にして、水稻、甘蔗、雑穀と三年輪作栽培で、水稻は給水、甘蔗は種植期だ

け給水、雑穀は給水なしという形で、一年ごとに順次栽培する方法を取ったという。そうした計画ではあったが、実際には区域内に低湿地が含まれるなど土地改良が進まない土地もあった。こうした農業指導を続けたのが嘉南大圳組合の水利技師・中島力夫氏など組合職員たちだった。中島氏は、農民の理解を得るために根気強く奔走、実行小組合や灌漑監視所で農業指導をおこない、台南農業学校で教鞭もとった。こうした功績を記念して、八田與一銅像の後ろにある八田與一夫妻墓の横には、中島力夫技師の分墓が嘉南農田水利会により設けられた。そして、一九七四年には曾文ダムが竣工して三年輪作地域が拡大、嘉南平原は穀倉地帯へ変貌していった。

こうした八田技師に主導されて建設された嘉南大圳事業は、今日に受け継がれて運用されているのだが、水利会の烏山頭管理处で現況について、たとえば、地球温暖化がダム施設等に及ぼす影響はあるか聞いてみた。「最近では、一年分の雨が数日で降ったりして、曾文溪ダムの山肌が崩れた。ダム湖に土砂が埋まって農業にも影響が出ないか心配している」。あるいは、「ダム湖内の土砂を取り除く技術と費用に苦慮している」と言う。また、「嘉南大圳が出来て、嘉南の農業、農民の暮らし、経済が著しく好転しました。そして今、長い歳月を経て、烏山頭ダム施設の老朽化に対応したメンテナンスは重要な課題です」。「当時に建設された烏山頭隧道が、古くなってきたので新しいトンネルの計画・施工を進めている」。さらに、「烏山頭堰堤の土手も風雨で壊れてきている箇所があるので、堰堤の土手を厚くする検討を始めている」という。本稿では、八田技師が自身の水利事業を後藤新平の敷いたレール上での段階的な役割と受け持ったよう

に、台湾近代化の礎を築いた卓越した人たちが尽力していたことをたどってみた。彼ら第一級の仕事人たちは、植民地という範疇を超えて、人々の生活を整え、守り、向上させるための工事を行い、精一杯の技術と情熱を傾けた。そして、八田技師の恩恵に感謝の気持ちをおぼれず、地元の方々、慰霊祭が毎年開催されているように、各地域で土木事業に邁進した人たちもまた地元民から深く慕われていることに感銘する。本書で紹介した人たちの他にもまだまだ多くの分野で成果を残した仕事人たちはいる。できれば、さらに、掘り下げていきたいと思っている。

創作オペラ「台湾に水を引いた男〜八田與一ものがたり」は、筆者が企画・原作のアニメ映画「パッテインライ！南の島の水ものがたり」で描けなかった台湾の農民たちと日本人技術者たちとの葛藤に思いを馳せた群集劇を意識した。多くの方々のご教導、ご協力を頂けたらと願って掲載いたしました。

緒方 英樹 (おがた ひでき)

宮崎県生まれ。

弘前大学大学院博士課程修了。博士(学術)。

「土木の絵本」全5巻シリーズの執筆、アニメ映画「パッテンライ！南の島の水ものがたり」(虫プロダクション)の企画・原作など、国づくりの歴史を若年層から大人までわかりやすく伝える活動をおこなっている。

最近の活動では「土木偉人かるた」(土木学会)の監修。毎日新聞オンライン連載、中央FMラジオ「ドボクのラジオ」出演など行っている。

土木学会では、土木広報センター土木リテラシー促進グループ、土木史委員会副委員長、土木史広報小委員委員長を務める。著書に「身近に楽しむ・学ぶ・語り継ぐ ふるさとの歴史資産」(オーム社)、「人物で知る日本の国土史」(オーム社)。

## 大地を拓く

2022年10月22日 初版第1刷発行

著 者 緒 方 英 樹

検印省略

発 行 者 柴 山 斐 呂 子

発行所 理工図書株式会社

〒102-0082 東京都千代田区一番町 27-2  
電話 03 (3230) 0221 (代表)  
FAX 03 (3262) 8247  
振替口座 00180-3-36087 番  
<http://www.rikohtosho.co.jp>  
お問合せ [info@rikohtosho.co.jp](mailto:info@rikohtosho.co.jp)



© 緒方英樹 2022 Printed in Japan ISBN978-4-8446-0920-9

印刷・製本 オピカ

本書のコピー等による無断転載・複製は、著作権法上の例外を除き禁じられています。内容についてのお問合せはホームページ内お問合せもしくはメールにてお願い致します。落丁・乱丁本は、送料小社負担にてお取替え致します。